事業名 経営体育成基盤整備事業	都道府県名	北海道	地区名	晩翠
-----------------	-------	-----	-----	----

1.総費用総便益比の算定

	区分	算足	定式	数值	備考
×	総費用(現在価値化) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	=	+	3,153,650 千円	
	当該事業による費用			1,647,969 千円	
	その他費用			1,505,681 千円	関連事業費 + 資産価額 + 再整備費
	平価期間			46 年	当該事業の工事期間 + 40年
K	総便益額(現在価値化)			4,886,162 千円	
×	総費用総便益比 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	=	÷	1.54	

効果項目	年効果額	効果の要因
作物生産効果	152,516 千円	用排水施設、区画整理、暗渠排水の整備を実施した場合と実施しなかった場合での農作物生産量が増減する効果対象作物:水稲、小麦、大豆、小豆、キャベツ、てんさい
品質向上効果	39,948 千円	用水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での作物の品質が向上する効果 対象作物:水稲
営農経費節減効果	65,886 千円	用排水施設、区画整理、暗渠排水の整備を実施した場合と実施しなかった場合での営農経費が増減する効果 対象作物:水稲、小麦、大豆、小豆、キャベツ、てんさい
維持管理費節減効果	5,303 千円	用排水施設及び区画整理の整備を実施した場合と実施しなかった場合での維持管理費が増減する効果 対象施設:用水路、排水路、農道
計	253,047 千円	

事業名 経営体育成基盤整備事業	都道府県名	岩手	地区名	六原
-----------------	-------	----	-----	----

1.総費用総便益比の算定

	区分	算足	定式	数值	備考
×	総費用(現在価値化)	=	+	4,826,574 千円	
	当該事業による費用			3,699,053 千円	
	その他費用			1,127,521 千円	関連事業費 + 資産価額 + 再整備費
i	平価期間			46 年	当該事業の工事期間 + 4 0 年
糸	総便益額(現在価値化)			5,843,928 千円	
糸	総費用総便益比	=	÷	1.21	

効果項目	年効果額	効果の要因
作物生産効果	136,132 千円	区画整理を実施した場合と用水施設の整備を実施しなかった場合での農作物生産量が増減する効果対象作物:水稲、大豆、なす、アスパラガス、レタス
営農経費節減効果	165,248 千円	区画整理を実施した場合と実施しなかった場合での 営農経費が増減する効果 対象作物:水稲、大豆
維持管理費節減効果	4,718 千円	用水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での維持管理費が増減する効果 対象施設:用水路、排水路
非農用地等創設効果	124 千円	公共用地を合理的かつ経済的に創設する効果 対象施設:集落排水処理施設、市道
計	306,222 千円	

事業名 経営体育成基盤整備事業	都道府県名	岩手	地区名	和賀中部第四	
-----------------	-------	----	-----	--------	--

1.総費用総便益比の算定

	区分	算足	定式	数值	備考
糸	総費用(現在価値化)	=	+	4,456,504 千円	
	当該事業による費用			2,348,297 千円	
	その他費用			2,108,207 千円	関連事業費 + 資産価額 + 再整備費
i	平価期間			46 年	当該事業の工事期間 + 4 0 年
糸	総便益額(現在価値化)			5,010,860 千円	
糸	総費用総便益比	=	÷	1.12	

効果項目	年効果額	効果の要因
作物生産効果	140,000 千円	用水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での農作物生産量が増減する効果 対象作物:水稲、小麦、大豆、牧草、アスパラガス
営農経費節減効果	111,535 千円	用水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での営農経費が増減する効果 対象作物:水稲
維持管理費節減効果	4,004 千円	用水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での維持管理費が増減する効果 対象施設:用水路、排水路
品質向上効果	151 千円	農道施設の整備を実施した場合による荷傷み防止に 関する効果 対象施設:アスパラガス
走行経費節減効果	10,996 千円	農道施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での農業交通に係る走行経費の増減する効果
計	258,677 千円	

事業名 経営体育成基盤整備事業	都道府県名	茨城県	地区名	利根北部	1
-----------------	-------	-----	-----	------	---

1.総費用総便益比の算定

	区分	算足	定式	数値	備考
×	総費用(現在価値化)	=	+	2,214,377 千円	
	当該事業による費用			1,952,649 千円	
	その他費用			261,728 千円	関連事業費 + 資産価額 + 再整備費
1	平価期間			52 年	当該事業の工事期間 + 40年
×	総便益額(現在価値化) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			2,277,052 千円	
×	総費用総便益比 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	=	÷	1.02	

効果項目	年効果額	効果の要因
作物生産効果	36,072 千円	水管理改良、乾田化、田畑輪換、作付増等による 生産量の増 対象作物:水稲、六畳大麦、枝豆、大豆、レタス等
営農経費節減効果	118,180 千円	労働時間の短縮、機械経費節減 対象作物:水稲、六畳大麦、枝豆、大豆、レタス等
維持管理費節減効果	10686 千円	農道及び用水施設、排水路の新設または更新に伴う 維持管理費の節減 対象施設:農道、用水施設、排水施設
非農用地創設効果	82 千円	公共用地等の非農用地を換地により創設すること で、合理的かつ経済的に用地を取得できる効果 対象施設:公園用地
計	143,648 千円	

事業名 経営体育成基盤整備事業	都道府県名	千葉県	地区名	府馬
-----------------	-------	-----	-----	----

1.総費用総便益比の算定

	区分	算足	定式	数值	備考
×	総費用(現在価値化)	=	+	2,779,404 千円	
	当該事業による費用			2,262,966 千円	
	その他費用			516,438 千円	関連事業費 + 資産価額 + 再整備費
Ė	平価期間			46 年	当該事業の工事期間 + 40年
幺	総便益額(現在価値化)			2,926,312 千円	
糸	総費用総便益比 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	=	÷	1.05	

効果項目	年効果額	効果の要因
作物生産効果	102,022 千円	ほ場整備を実施した場合と実施しなかった場合での 農作物生産量が増減する効果 対象作物:水稲,小麦,燕麦等
営農経費節減効果	53,002 千円	は場整備を実施した場合と実施しなかった場合での 営農経費が増減する効果 対象作物:水稲
維持管理費節減効果	5,030 千円	は場整備を実施した場合と実施しなかった場合での 維持管理費が増減する効果 対象施設:揚水機場,農業用排水路,農道
非農用地等創設効果	19 千円	公共用地等の非農用地を創設することによる用地調 達経費の節減 対象施設:河川用地,市道用地
計	150,013 千円	

事業名	経営体育成基盤整備事業	都道府県名	千葉県	地区名	春海
-----	-------------	-------	-----	-----	----

1.総費用総便益比の算定

	区分	算足	定式	数值	備考
×	総費用(現在価値化)	=	+	2,628,884 千円	
	当該事業による費用			1,890,483 千円	
	その他費用			738,401 千円	関連事業費 + 資産価額 + 再整備費
盲	平価期間			46 年	当該事業の工事期間 + 4 0 年
糸	総便益額(現在価値化)			3,337,652 千円	
糸	^総 費用総便益比	=	÷	1.26	

効果項目	年効果額	効果の要因
作物生産効果	116,907 千円	は場整備を実施した場合と実施しなかった場合での 農作物生産量が増減する効果 対象作物:水稲,キャベツ,トマト等
営農経費節減効果	66,061 千円	は場整備を実施した場合と実施しなかった場合での 営農経費が増減する効果 対象作物:水稲
維持管理費節減額	8,876 千円	ほ場整備を実施した場合と実施しなかった場合での 維持管理費が増減する効果 対象施設:揚水機場,農業用用排水路
地籍確定効果	604 千円	は場整備の実施により付随的に地籍を明確にする効 果
計	174,696 千円	

事業名 経営体育成基盤整備事業	都道府県名	千葉県	地区名	夷隅川1期	1
-----------------	-------	-----	-----	-------	---

1.総費用総便益比の算定

	区分	算足	定式	数値	備考
4	総費用(現在価値化)	=	+	2,387,585 千円	
	当該事業による費用			1,892,244 千円	
	その他費用			495,341 千円	関連事業費 + 資産価額 + 再整備費
1	平価期間			46 年	当該事業の工事期間 + 4 0 年
4	総便益額(現在価値化)			2,439,062 千円	
4	総費用総便益比	=	÷	1.02	

効果項目	年効果額	効果の要因
作物生産効果	53,417 千円	ほ場整備を実施した場合と実施しなかった場合での 農作物生産量が増減する効果 対象作物:水稲,食用ナバナ,飼料作物等
営農経費節減効果	90,782 千円	ほ場整備を実施した場合と実施しなかった場合での 営農経費が増減する効果 対象作物:水稲,そば,食用ナバナ,小麦等
維持管理費節減効果	7,462 千円	ほ場整備を実施した場合と実施しなかった場合での 維持管理費が増減する効果 対象施設:揚水機場,農業用用排水路
地籍確定効果	1,474 千円	ほ場整備の実施により付随的に地籍を明確にする効 果
非農用地等創設効果	534 千円	公共用地等の非農用地を創設することによる用地調 達経費の節減 対象施設:直売所,公園,市道等
耕作放棄防止効果	342 千円	は場整備の実施により耕作放棄の発生が抑制される ことで作物生産が維持される効果
計	139,087 千円	

事業名 経営体育成基盤整備事業	都道府県名	静岡県	地区名	高根西部塚原	Ĭ
-----------------	-------	-----	-----	--------	---

1.総費用総便益比の算定

	区分	算足	定式	数值	備考
×	総費用(現在価値化)	=	+	1,173,843 千円	
	当該事業による費用			1,090,884 千円	
	その他費用			82,959 千円	関連事業費 + 資産価額 + 再整備費
i	平価期間			46 年	当該事業の工事期間 + 4 0 年
糸	総便益額(現在価値化)			1,516,076 千円	
糸	総費用総便益比	=	÷	1.29	

効果項目	年効果額	効果の要因
作物生産効果	17,502 千円	乾田化(田)、水管理改良(田)、 作付面積増減(田・田(輪換)・田(裏)・畑)。 湿潤かんがい(田(輪換)・田(裏)・畑)
営農経費節減効果	66,097 千円	土地基盤条件の改良(田:小区画・半湿田 中区画・乾田)(畑:未整備・乾畑 中区画・乾畑)による作業体系の効率化
維持管理費節減効果	476千円	用排水路整備による節減効果 農道整備による節減効果
耕作放棄防止効果	581 千円	ほ場整備実施に伴う耕作放棄防止効果
計	83,704 千円	

事業名 経営体育成基盤整備事業	都道府県名	新潟	地区名	道上(2期)
-----------------	-------	----	-----	--------

1.費用便益比の算定

区分	算 定 式	数值	備考
総事業費		2,110,640 千円	
年 効 用		122,052 千円	
廃用損失額		15,769 千円	廃用する施設の現存価値
総合耐用年数		35 年	当該事業の耐用年数
還元率×(1+ 建設利息率)		0.0553	総合耐用年数に応じた効用から総 便益を算定するための係数
総 便 益	= ÷ -	2,191,320 千円	
費用便益比	= ÷	1.03	

項	目	年効果額(千円)	効果の内容
農作物の生産量 の増加	作物生産効果	14,163	水田の用排水分離、暗渠排水等によ る転作作物の面積拡大や単収の増加 対象作物:水稲、大豆、えだまめ
営農経費及び維 持管理費の節減	営農経費節減効果	91,213	ほ場の大区画化による労働時間の短縮や機械経費の節減 対象作物:水稲、大豆、えだまめ
	維持管理費節減効果	-1,034	用排水施設等の改修、統廃合に伴う 施設の維持管理費の節減 対象施設:用排水施設、農道
施設更新による 従前の農業生産 の維持	更新効果	14,652	老朽化した施設の更新による従前の 農業生産の維持 対象施設:排水路
地域資源の保全 ・向上	公共施設保全効果	2,903	付け替えた施設の耐用年数が増加することにより付随的に向上する効果 対象施設:橋梁、揚水機場、桶管等
景観の保全	水辺環境整備効果	155	用排水施設を親水性等環境に配慮した施設にすることによる水辺環境が保全、創造される効果 対象施設:排水路
	計	122,052	

事業名 経営体育成基盤整備事業	都道府県名 新潟	地区名 国府川左岸(2期)
-----------------	----------	---------------

1.費用便益比の算定

区分	算 定 式	数值	備考
総事業費		17,768,359 千円	
年 効 用		1,237,350 千円	
廃用損失額		230,521 千円	廃用する施設の現存価値
総合耐用年数		52 年	当該事業の耐用年数
還元率×(1+ 建設利息率)		0.0475	総合耐用年数に応じた効用から総 便益を算定するための係数
総 便 益	= ÷ -	25,818,953 千円	
費用便益比	= ÷	1.45	

項	目	年効果額(千円)	効果の内容
農作物の生産量 の増加	作物生産効果	258,202	水田の用排水分離、暗渠排水等によ る転作作物の面積拡大や単収の増加 対象作物:水稲、大豆、えだまめ
営農経費及び維 持管理費の節減	営農経費節減効果	255,943	ほ場の大区画化による労働時間の短 縮や機械経費の節減 対象作物:水稲、大豆、えだまめ
	維持管理費節減効果	33,755	用排水施設等の改修、統廃合に伴う 施設の維持管理費の節減 対象施設:用排水施設、農道
	営農に係る走行経費 節減効果	22,302	農道の改修(拡幅)による車種転換及 び作業速度の向上に伴う経費の節減 対象施設:農道
施設更新による 従前の農業生産 の維持	更新効果	308,722	老朽化した施設の更新による従前の 農業生産の維持 対象施設:排水路
地域資源の保全 ・向上	河川流域安定効果	18,490	ダムによる取水量の増加により還元 水が増加し、河川の流況が安定 対象施設:ダム
被害の軽減	洪水被害軽減効果	164,248	ダムの空き容量が洪水被害の軽減に 貢献 対象施設:ダム

項	目	年効果額(千円)	効果の内容
景観の保全	水辺環境整備効果	117	頭首工に魚道を、排水路に緑化プロックを設置し、地域住民の憩いの場の提供、観光資源として利活用対象施設:頭首工、排水路
その他	災害時水源利活用効 果	175,571	かんがい用水を災害時の飲料水、防 火用水として活用 対象施設:ダム
	計	1,237,350	

┃事業名│ 経営体育成基盤整備事業 ┃都道府県名│ 福井県 ┃地区名│ 川西中部(3期)
--

1.費用便益比の算定

区分	算 定 式	数值	備考
総事業費		5,676,100千円	関連事業 688,600 内数
年 効 用		675,362千円	
廃 用 損 失 額		8,081千円	廃用する施設の現存価値
総合耐用年数		29年	当該事業の耐用年数
還元率×(1+ 建設利息率)		0.0608	総合耐用年数に応じた効用から総 便益を算定するための係数
総 便 益	= ÷ -	11,101,674千円	
費用便益比	= ÷	1.95	

項	目	年効果額(千円)	効果の内容
農作物の生産量 の増加	作物生産効果	15,123	暗渠排水及び客土等による転作作物 の面積拡大や単収の増加 対象作物:水稲、大麦、大豆
営農経費及び維 持管理費の節減	営農経費節減効果	454,787	ほ場の大区画化による労働時間の短 縮や機械経費の節減 対象作物:水稲、大麦、大豆、 すいか、だいこん
	維持管理費節減効果	13,490	用排水施設等の改修、統廃合に伴う 施設の維持管理費の節減 対象施設:用水路、排水路、農道 揚水機場
施設更新による 従前の農業生産 の維持	更 新 効 果	115,288	老朽化した施設の更新による従前の 農業生産の維持 対象施設:用水路、排水路、農道
合理的かつ経済 的に公共用地を 取得できる効果	非農用地等創設効果	3,002	公共用地取得に係る期間の短縮及び 経費等の節減 対象施設:国道416号用地
地域資産の保全 ・向上	地積確定効果	1,018	事業実施に伴い、区画の整形化され 地籍が明確になる効果
地域の生活環境 の保全・向上	水辺環境整備効果	2,254	排水路に生態系保全施設により水辺 環境が保全、創造される効果 対象施設:排水路
関連事業効果	関連事業効果	70,400	上位事業の国営、県営かん排事業に よる効果
	計	675,362	

1.費用便益比の算定

区分	算 定 式	数值	備考
総事業費		3,583,009千円	関連事業 1,152,259 内数
年 効 用		268,178千円	
廃用損失額		55,825千円	廃用する施設の現存価値
総合耐用年数		32年	当該事業の耐用年数
還元率×(1+ 建設利息率)		0.0693	総合耐用年数に応じた効用から総 便益を算定するための係数
総 便 益	= ÷ -	3,813,987千円	
費用便益比	= ÷	1.06	

項	目	年効果額(千円)	効果の内容
農作物の生産量 の増加	作物生産効果	18,756	用水改良及び客土等による転作作物 の面積拡大や単収の増加 対象作物:水稲、大麦、大豆、トマ ト、だいこん
営農経費及び維 持管理費の節減	営農経費節減効果	54,442	水管理合理化等による労働時間の短 縮 対象作物:水稲、大麦、大豆、トマ ト、だいこん
	維持管理費節減効果	29,195	用水施設等の改修、統廃合に伴う施 設の維持管理費の節減 対象施設:頭首工、用水路等
施設更新による 従前の農業生産 の維持	更 新 効 果	125,904	老朽化した施設の更新による従前の 農業生産の維持 対象施設:頭首工、用水路
関連事業効果	関連事業効果	39,881	上位事業の国営、県営かん排事業に よる効果
	計	268,178	

事業名 経営体育成基盤整備事業	都道府県名	三重県	地区名	小俣
-----------------	-------	-----	-----	----

1.総費用総便益比の算定

区分		算定式		数值	備考
×	総費用(現在価値化)	=	+	4,948,987 千円	
	当該事業による費用			1,806,269 千円	
	その他費用			3,142,718 千円	関連事業費 + 資産価額 + 再整備費
1	平価期間			46 年	当該事業の工事期間 + 4 0 年
総便益額(現在価値化)				6,351,573 千円	
総費用総便益比		=	÷	1.28	

効果項目	年効果額	効果の要因
作物生産効果	173,927 千円	水田の用水改良による転作作物の面積拡大及び減少 及び事業なかりせばによる生産量の減収 対象作物:水稲、野菜
作物生産効果 (塩害防止効果)	4,550 千円	事業なかりせばによる、塩害による生産費の低額 対象作物:水稲
営農経費節減効果	7,785 千円	事業なかりせばによる、水稲、野菜のかん排水管理 時間の減少 対象作物:水稲、野菜
維持管理費節減効果	4,485 千円	用水改良に伴う施設の維持管理費の節減及び事業な かりせばによる管理時間の減少 対象施設:用水路
営農に係る走行経費節減 効果	3,876 千円	農道の改良に伴う走行車種・速度の変更及び事業な かりせばによる農道延長の増加 対象施設:農道

効果項目	年効果額	効果の要因
災害防止効果	80,377 千円	施設更新に伴う農業用水施設、一般資材、公共資産 の被害が提言される 対象施設:ため池等
景観・環境保全効果	47,946 千円	頭首工魚道の改修により、環境との調和に配慮がな されることにより地域住民の意識が改善される 対象施設:頭首工魚道
都市・農村交流促進効果	220 千円	施設の改修により付随するリクリェーション施設が 観光資源として里活用される 対象施設:リクリェーション施設
安全性向上効果	1,616 千円	用水路施設の暗渠化に伴い転落事故等が軽減される 対象施設:用水路
計	309,212 千円	

事業名 経営体育成基盤整備事業	都道府県名	香川	地区名	羽床上東
-----------------	-------	----	-----	------

1.総費用総便益比の算定

区分		算定式		数值	備考
×	総費用(現在価値化)	=	+	1,379,246 千円	
	当該事業による費用			1,009,677 千円	
	その他費用			369,569 千円	関連事業費 + 資産価額 + 再整備費
盲	平価期間			46 年	当該事業の工事期間 + 4 0 年
総便益額(現在価値化)				1,618,376 千円	
総費用総便益比		=	÷	1.17	

効果項目	年効果額	効果の要因
作物生産効果	32,055 千円	区画整理を実施した場合と実施しなかった場合での 農作物生産量が増減する効果 対象作物:水稲、小麦、ブロッコリー
営農経費節減効果	58,377 千円	区画整理を実施した場合と実施しなかった場合での 営農経費が増減する効果 対象作物:水稲、小麦、ブロッコリー
維持管理費節減効果	4,108 千円	区画整理を実施した場合と実施しなかった場合での 維持管理費が増減する効果 対象施設:揚水機場、用水路、ため池、農道等
耕作放棄防止効果	61 千円	区画整理を実施した場合と実施しなかった場合での 耕作放棄地の発生を防止する効果 対象施設:農地
計	86,385 千円	

┃事業名│ 経営体育成基盤整備事業 ┃都道府県名│ 鹿児島 ┃地区名│ 金峰(2期)
--

1.費用便益比の算定

区分	算 定 式	数值	備考
総事業費		2,610,300 千円	
年 効 用		183,671 千円	
廃 用 損 失 額		349,641 千円	廃用する施設の現存価値
総合耐用年数		29 年	当該事業の耐用年数
還元率×(1+ 建設利息率)		0.0608	総合耐用年数に応じた効用から 総便益を算定するための係数
総 便 益	= ÷ -	2,671,264 千円	
費用便益比	= ÷	1.02	

項	目	年効果額	効果の内容
農産物の生産量 の増加	作物生産効果	33,190 千円	生産基盤の整備による土地利用 の向上及び単収の増加 対象作物:水稲,かんしょ,か ぼちゃ等
	品質向上効果	2,615 千円	農道舗装に伴う荷傷み軽減によ る品質向上効果 対象作物:かんしょ,ねぎ,レタス
営農経費の節減	営農経費節減効果	17,128 千円	用水施設の整備による用水作業 時間の節減 対象作物:水稲等
	維持管理費節減効果	14,176 千円	区画整理(道路、排水路)によ る維持管理費の減少
	走行経費節減効果	1,707 千円	農道整備により農作物輸送に係 る経費が節減される効果 対象作物:水稲,かんしょ,か ぼちゃ等
施設更新による 従前の農業生産 の維持	更 新 効 果	99,799 千円	老朽化した施設の更新による従 前の農業生産の維持 対象施設:用排水路、農道
地域の生活環境 の保全・向上	一般交通経費節減効 果	5,350 千円	農道整備により一般交通に係る 経費が節減される効果
	公共施設保全効果	9,706 千円	パイプライン敷設に伴い対象道路の 有する機能が維持される効果
	計	183,671 千円	

事業名	経営体育成基盤整備事業	都道府県名	富山	地区名	大浦
	(農業生産法人等育成緊急整備事業)				

1.総費用総便益比の算定

	区分	算定		数值	備考
4	総費用(現在価値化)	=	+	2,793,394 千円	
	当該事業による費用			1,535,129 千円	
	その他費用			1,258,265 千円	関連事業費 + 資産価額 + 再整備費
	平価期間			46 年	当該事業の工事期間 + 4 0 年
42 N	総便益額(現在価値化)			2,811,429 千円	
4	総費用総便益比	=	÷	1.00	

効果項目	年効果額	効果の要因
作物生産効果	37,965 千円	用水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での農作物生産量が増減する効果 対象作物:水稲、ハト麦
営農経費節減効果	84,480 千円	区画整理(大区画化及び乾田化)を実施した場合と 実施しなかった場合での営農経費が増減する効果 対象作物:水稲、ハト麦
災害防止効果	23,776 千円	関連施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での災害による被害額が増減する効果 対象施設:農業関連資産、公共資産、一般資産
耕作放棄防止効果	739 千円	区画整理を実施した場合と実施しなかった場合での 耕作放棄の発生が防止される効果 対象作物:水稲、ハト麦
その他	916 千円	維持管理費節減効果(94) 景観・環境保全効果(545) 国営氷見地区 関連事業分(277)
計	147,876 千円	

事業名	経営体育成基盤整備事業	都道府県名	富山県	地区名	北山田中部西
	(農業生産法人等育成緊急整備事業)				

1.総費用総便益比の算定

	区分 算定式		〕式	数值	備考
×	総費用(現在価値化)	=	+	999,718 千円	
	当該事業による費用			859,557 千円	
	その他費用			140,161 千円	関連事業費 + 資産価額 + 再整備費
i	平価期間			46 年	当該事業の工事期間 + 4 0 年
幺	総便益額(現在価値化)			1,047,141千円	
糸	総費用総便益比	=	÷	1.04	

効果項目	年効果額	効果の要因
作物生産効果	15,536 千円	用水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での農作物生産量が増減する効果 対象作物:水稲、大豆、大麦
営農経費節減効果	23,688 千円	総合的な農業生産基盤の改良と農業生産法人の育成 によって営農効率が向上する効果 対象作物:水稲、大豆
維持管理費節減効果	154 千円	用水施設及び農道の整備を実施した場合と実施しな かった場合での維持管理費が増減する効果 対象施設:農業用水利施設、農道
地域用水効果	11,208 千円	用排水施設が消流雪用水に利用されることで除雪に 係る経費の削減が図る効果
計	50,586 千円	

事業名	経営体育成基盤整備事業	都道府県名	三重県	地区名	鈴鹿川沿岸5期
	(農業生産法人等育成緊急整備事業)				

1.総費用総便益比の算定

	区分	算足	定式	数值	備考
幺	総費用(現在価値化)	=	+	2,541,259 千円	
	当該事業による費用			1,164,686 千円	
	その他費用			1,376,573 千円	関連事業費 + 資産価額 + 再整備費
Ē	平価期間			46 年	当該事業の工事期間 + 40年
幺	※便益額(現在価値化) ※ではできる。			2,613,911 千円	
糸	^総 費用総便益比	=	÷	1.02	

効果項目	年効果額	効果の要因
作物生産効果	108,262 千円	水田の用水改良による転作作物の面積拡大及び減少 及び事業なかりせばによる生産量の減収 対象作物:水稲、野菜
営農経費節減効果	2,272 千円	事業なかりせばによる、水稲、野菜のかん排水管理 時間の減少 対象作物:水稲、野菜
維持管理費節減効果	11,639 千円	用水改良に伴う施設の維持管理費の節減及び事業な かりせばによる管理時間の減少 対象施設:用水路
営農に係る走行経費節減 効果	3,755 千円	農道の改良に伴う走行車種・速度の変更及び事業な かりせばによる農道延長の増加 対象施設:農道
安全性向上効果	9,342 千円	用水路施設の暗渠化に伴い転落事故等が軽減される 対象施設:用水路
計	130,726 千円	

事業名	経営体育成基盤整備事業	都道府県名	広島	地区名	泉北
	(農業生産法人等育成緊急整備事業)				

1.総費用総便益比の算定

区分	算定式	数值	備考
総費用(現在価値化)	= +	1,100,386 千円	
当該事業による費用		970,423 千円	
その他費用		129,963 千円	関連事業費 + 資産価額 + 再整備費
評価期間		46 年	当該事業の工事期間 + 40年
総便益額(現在価値化)		1,235,464 千円	
総費用総便益比	= ÷	1.12	

効果項目	年効果額	効果の要因
作物生産効果	4,781 千円	は場整備を実施した場合と実施しなかった場合での 農作物生産量が増減する効果 対象作物:水稲、大豆、種ばれいしょ
営農経費節減効果	66,611 千円	は場整備を実施した場合と実施しなかった場合での 営農経費が増減する効果 対象作物:水稲、大豆、種ばれいしょ
維持管理費節減効果	2,176 千円	は場整備を実施した場合と実施しなかった場合での 維持管理費が増減する効果 対象施設:農道、用排水路
耕作放棄防止効果	20 千円	は場整備を実施した場合と実施しなかった場合での 耕作放棄を防止する効果 対象農地:水田
計	69,236 千円	

事業名 経営体育成基盤整備事 (農業生産法人等育成緊急整備		山口県地	地区名 二島西(第二)
-------------------------------	--	------	-------------

1.費用便益比の算定

区分	算 定 式	数值	備考
総事業費		4,935,000 千円	
年 効 用		318,412 千円	
廃 用 損 失 額		•	廃用する施設の現存価値
総合耐用年数		31年	当該事業の耐用年数
還元率×(1+ 建設利息率)		0.0587	総合耐用年数に応じた効用から総 便益を算定するための係数
総 便 益	= ÷ -	5,424,395 千円	
費用便益比	= ÷	1.09	

項	目	年効果額(千円)	効果の内容
農作物の生産量 の増加	作物生産効果	50,167	水田の排水改良等による転作作物の 面積拡大や単収の増加 対象作物:水稲、大豆、小麦、キャ ベツ、たまねぎ、ブロッコリー他
営農経費の節減	営農経費節減効果	255,287	ほ場の大区画化による労働時間の短 縮や機械経費の節減 対象作物:水稲、大豆、小麦、キャ ベツ、たまねぎ、ブロッコリー他
	維持管理費節減効果	15,139	用排水施設等の新設、改修、統廃合 に伴う施設の維持管理費の増 対象施設:用水路、排水路、用水機 場、排水機場、道路
施設更新による 従前の農業生産 の維持	更 新 効 果	8,166	老朽化した施設の更新による従前の 農業生産の維持 対象施設:用水路、排水路、道路
施設更新による 災害防止	災害防止効果	2,621	排水施設の整備、新設により、農用 地、農業用施設及び一般公共施設の 湛水等被害の防止と軽減 対象施設:排水路、排水機場
地域の生活環境 の保全・同上	文化財発見効果	15,504	発掘調査により文化的価値が明確と なる効果 対象施設:古大里遺跡、古宮遺跡
	水辺環境整備効果	826	排水路の一部を水生生物の生息に配慮した水路とすることにより、生態系が保全される効果の発現対象施設:排水路
	地積確定効果	980	将来国土調査を行う予定であるが本 事業を実施した場合に行う換地作業 により付随的に地積が明確となる効 果
	計	318,412	

事業名	経営体育成基盤整備事業 (農地集積加速化基盤整備事業)	都道府県名	北海道	地区名	新高倉北
-----	--------------------------------	-------	-----	-----	------

1.総費用総便益比の算定

区分		算定式		数值	備考
×	総費用(現在価値化)	=	+	3,321,123 千円	
	当該事業による費用			1,316,470 千円	
	その他費用			2,004,653 千円	関連事業費 + 資産価額 + 再整備費
	平価期間			46 年	当該事業の工事期間 + 4 0 年
×	総便益額(現在価値化)			4,695,954 千円	
総費用総便益比		=	÷	1.41	

効果項目	年効果額	効果の要因
作物生産効果	131,403 千円	用排水施設、区画整理、暗渠排水、客土の整備を実施した場合と実施しなかった場合での農作物生産量が増減する効果 対象作物:水稲、小麦、大豆、たまねぎ
品質向上効果	32,444 千円	用水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での作物の品質が向上する効果 対象作物:水稲
営農経費節減効果	75,493 千円	用排水施設、区画整理、暗渠排水、客土の整備を実施した場合と実施しなかった場合での営農経費が増減する効果 対象作物:水稲、小麦、大豆、たまねぎ
維持管理費節減効果	5,557 千円	用排水施設の整備を実施した場合と実施しなかった 場合での維持管理費が増減する効果 対象施設:用水路、排水路
災害防止効果	13,967 千円	関連事業の用水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での洪水被害を防止する効果 対象:農作物、農業用施設
計	247,750 千円	

事業名	経営体育成基盤整備事業	都道府県名	北海道	地区名	拓新
	(農地集積加速化基盤整備事業)				

1.総費用総便益比の算定

区分		算定式		数值	備考
×	総費用(現在価値化)	=	+	3,095,793 千円	
	当該事業による費用			1,239,979 千円	
	その他費用			1,855,814 千円	関連事業費 + 資産価額 + 再整備費
	平価期間			46 年	当該事業の工事期間 + 4 0 年
×	総便益額(現在価値化)			4,401,063 千円	
総費用総便益比		=	÷	1.42	

効果項目	年効果額	効果の要因
作物生産効果	133,614 千円	用排水施設、区画整理、暗渠排水、客土の整備を実施した場合と実施しなかった場合での農作物生産量が増減する効果 対象作物:水稲、小麦、大豆、たまねぎ
品質向上効果	26,976 千円	用水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での作物の品質が向上する効果 対象作物:水稲
営農経費節減効果	71,979 千円	用排水施設、区画整理、暗渠排水、客土の整備を実施した場合と実施しなかった場合での営農経費が増減する効果 対象作物:水稲、小麦、大豆、たまねぎ
維持管理費節減効果	7,689 千円	用排水施設の整備を実施した場合と実施しなかった 場合での維持管理費が増減する効果 対象施設:用水路、排水路
災害防止効果	12,041 千円	関連事業の用水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での洪水被害を防止する効果 対象:農作物、農業用施設
計	236,921 千円	

事業名	経営体育成基盤整備事業 (農地集積加速化基盤整備事業)	都道府県名	北海道	地区名	幌向
					1

1.総費用総便益比の算定

区分		算定式		数值	備考
×	総費用(現在価値化)	=	+	3,247,687 千円	
	当該事業による費用			1,771,465 千円	
	その他費用			1,476,222 千円	資産価額 + 再整備費
	平価期間			46 年	当該事業の工事期間 + 4 0 年
K	総便益額(現在価値化) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			6,074,043 千円	
総費用総便益比		=	÷	1.87	

効果項目	年効果額	効果の要因
作物生産効果	183,161 千円	用排水施設、区画整理の整備を実施した場合と実施 しなかった場合での農作物生産量が増減する効果 対象作物:株は、様、たは、たまねぎ、にんじん、キャベツ
品質向上効果	48,684 千円	用水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での作物の品質が向上する効果 対象作物:水稲
営農経費節減効果	105,108 千円	排水施設、区画整理の整備を実施した場合と実施しなかった場合での営農経費が増減する効果 対象作物:メホル、 ルセ、 たセ た た た た た た た た た た た た た た た た た
維持管理費節減効果	6,410 千円	用排水施設及び農道の整備を実施した場合と実施しなかった場合での維持管理費が増減する効果 対象施設:用水路、排水路、農道
計	330,543 千円	

事業名	経営体育成基盤整備事業 (農地集積加速化基盤整備事業)	都道府県名	北海道	地区名	川向
					i

1.総費用総便益比の算定

	区分		定式	数值	備考
×	総費用(現在価値化)	=	+	2,804,228 千円	
	当該事業による費用			1,441,382 千円	
	その他費用			1,362,846 千円	資産価額 + 再整備費
	平価期間			46 年	当該事業の工事期間 + 40年
×	総便益額(現在価値化)			5,653,084 千円	
×	総費用総便益比	=	÷	2.01	

効果項目	年効果額	効果の要因
作物生産効果	231,908 千円	用排水施設、区画整理、暗渠排水、客土の整備を実施した場合と実施しなかった場合での農作物生産量が増減する効果 対象作物:水稲、小麦、大豆、たまねぎ
品質向上効果	22,236 千円	用水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での作物の品質が向上する効果 対象作物:水稲
営農経費節減効果	42,269 千円	用排水施設、区画整理、暗渠排水、客土の整備を実施した場合と実施しなかった場合での営農経費が増減する効果 対象作物:水稲、小麦、大豆、たまねぎ
維持管理費節減効果	2,403 千円	用排水施設の整備を実施した場合と実施しなかった 場合での維持管理費が増減する効果 対象施設:用水路、排水路
計	294,010 千円	

事業名 経営体育成基盤整備事業 (農地集積加速化基盤整備事業)	都道府県名	北海道	地区名	大沼
---------------------------------	-------	-----	-----	----

1.総費用総便益比の算定

区分		算定式		数值	備考
4	総費用(現在価値化)	=	+	2,792,069 千円	
	当該事業による費用			1,595,238 千円	
	その他費用			1,196,831 千円	資産価額 + 再整備費
1111	平価期間			46 年	当該事業の工事期間 + 40年
4	総便益額(現在価値化)			5,482,311 千円	
421	総費用総便益比	=	÷	1.96	

効果項目	年効果額	効果の要因
作物生産効果	195,141 千円	用排水施設、区画整理、暗渠排水、客土の整備を実施した場合と実施しなかった場合での農作物生産量が増減する効果 対象作物:水稲、小麦、たまねぎ、はくさい、レタス、キャベツ
品質向上効果	27,132 千円	用水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での作物の品質が向上する効果 対象作物:水稲
営農経費節減効果	69,763 千円	用排水施設、区画整理、暗渠排水、客土の整備を実施した場合と実施しなかった場合での営農経費が増減する効果 対象作物:水稲、小麦、たまねぎ、はくさい、レタス、キャベツ
維持管理費節減効果	6,182 千円	用排水施設及び農道の整備を実施した場合と実施しなかった場合での維持管理費が増減する効果 対象施設:用水路、排水路、農道
計	285,854 千円	

事業名	経営体育成基盤整備事業	都道府県名	北海道	地区名	滝川西
	(農地集積加速化基盤整備事業)				

1.総費用総便益比の算定

	区分		定式	数值	備考
×	総費用(現在価値化)	=	+	3,562,221 千円	
	当該事業による費用			1,826,676 千円	
	その他費用			1,735,545 千円	資産価額 + 再整備費
	平価期間			46 年	当該事業の工事期間 + 40年
K	総便益額(現在価値化) ※ではできます。			4,811,006 千円	
×	総費用総便益比	=	÷	1.35	

効果項目	年効果額	効果の要因
作物生産効果	155,498 千円	用排水施設、区画整理、暗渠排水の整備を実施した場合と実施しなかった場合での農作物生産量が増減する効果 対象作物:水稲、小麦、大豆、そば、たまねぎ
品質向上効果	55,488 千円	用水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での作物の品質が向上する効果 対象作物:水稲
営農経費節減効果	32,814 千円	用排水施設、区画整理、暗渠排水の整備を実施した 場合と実施しなかった場合での営農経費が増減する 効果 対象作物:水稲、小麦、大豆、そば、たまねぎ
維持管理費節減効果	1,256 千円	用排水施設の整備を実施した場合と実施しなかった 場合での維持管理費が増減する効果 対象施設:用水路、排水路
計	242,544 千円	

事業名 経営体育成基盤整備事業 (農地集積加速化基盤整備事業)	都道府県名	北海道	地区名	西長沼第3
------------------------------------	-------	-----	-----	-------

1.総費用総便益比の算定

区分		算定式		数值	備考
X	総費用(現在価値化)	=	+	5,074,139 千円	
	当該事業による費用			2,644,309 千円	
	その他費用			2,429,830 千円	資産価額 + 再整備費
Ė	平価期間			46 年	当該事業の工事期間 + 4 0 年
×	総便益額 (現在価値化)			5,697,624 千円	
幺	総費用総便益比 ※	=	÷	1.12	

効果項目	年効果額	効果の要因
作物生産効果	205,825 千円	用排水施設、区画整理、暗渠排水の整備を実施した場合と実施しなかった場合での農作物生産量が増減する効果対象作物:水稲、小麦、大豆、てんさい、ばれいしょ、はくさい、トマト
品質向上効果	53,538 千円	用水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での作物の品質が向上する効果 対象作物:水稲
営農経費節減効果	10,307 千円	用排水施設、区画整理、暗渠排水の整備を実施した場合と実施しなかった場合での営農経費が増減する効果 対象作物:水稲、小麦、大豆、てんさい、ばれいしょ、はくさい、トマト
維持管理費節減効果	577 千円	用排水施設及び農道の整備を実施した場合と実施しなかった場合での維持管理費が増減する効果 対象施設:用水路、排水路、農道
営農に係る走行経費節減 効果	14,930 千円	農道の整備を実施した場合と実施しなかった場合で の営農に係る走行経費が低減する効果 対象作物:水稲、小麦、大豆、てんさい、ばれいし ょ、はくさい、トマト
一般交通等経費節減効果	757 千円	農道の整備を実施した場合と実施しなかった場合で の一般車両の走行経費が低減する効果 対象施設:農道
計	284,780 千円	

事業名	経営体育成基盤整備事業	都道府県名	北海道	地区名	札豊
	(農地集積加速化基盤整備事業)				

1.総費用総便益比の算定

	区分	算足	定式	数值	備考
×	総費用(現在価値化)	=	+	2,591,027 千円	
	当該事業による費用			1,636,125 千円	
	その他費用			954,902 千円	関連事業費 + 資産価額 + 再整備費
	平価期間			46 年	当該事業の工事期間 + 40年
K	総便益額(現在価値化)			4,574,415 千円	
×	総費用総便益比	=	÷	1.76	

効果項目	年効果額	効果の要因
作物生産効果	143,964 千円	用排水施設、区画整理、暗渠排水、客土の整備を実施した場合と実施しなかった場合での農作物生産量が増減する効果 対象作物:水稲、小麦、大豆、かぼちゃ、メロン、すいか
品質向上効果	34,032 千円	用水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での作物の品質が向上する効果 対象作物:水稲
営農経費節減効果	65,511 千円	用排水施設、区画整理、暗渠排水、客土の整備を実施した場合と実施しなかった場合での営農経費が増減する効果 対象作物:水稲、小麦、大豆、かぼちゃ、メロン、すいか
維持管理費節減効果	4,528 千円	用排水施設の整備を実施した場合と実施しなかった 場合での維持管理費が増減する効果 対象施設:用水路、排水路
計	238,979 千円	

事業名	経営体育成基盤整備事業 (農地集積加速化基盤整備事業)	都道府県名	北海道	地区名	恵岱別

1.総費用総便益比の算定

	区分	算足	定式	数值	備考
×	総費用(現在価値化)	=	+	5,707,738 千円	
	当該事業による費用			2,413,805 千円	
	その他費用			3,293,933 千円	資産価額 + 再整備費
	平価期間			46 年	当該事業の工事期間 + 4 0 年
K	総便益額(現在価値化)			7,042,355 千円	
×	総費用総便益比	=	÷	1.23	

効果項目	年効果額	効果の要因
作物生産効果	231,173 千円	用排水施設、区画整理、暗きょ、客土の整備を実施 した場合と実施しなかった場合での農作物生産量が 増減する効果 対象作物:水稲、小麦、大豆、そば、メロン
品質向上効果	62,736 千円	用水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での作物の品質が向上する効果 対象作物:水稲
営農経費節減効果	71,467 千円	用排水施設、区画整理、暗きょ、客土の整備を実施 した場合と実施しなかった場合での営農経費が増減 する効果 対象作物:水稲、小麦、大豆、そば、メロン
維持管理費節減効果	421 千円	用排水施設の整備を実施した場合と実施しなかった 場合での維持管理費が増減する効果 対象施設:用水路、排水路
計	365,797 千円	

事業名	経営体育成基盤整備事業	都道府県名	北海道	地区名	本牧
	(農地集積加速化基盤整備事業)				

1.総費用総便益比の算定

	区分	算足	定式	数值	備考
×	総費用(現在価値化)	=	+	2,688,617 千円	
	当該事業による費用			1,093,162 千円	
	その他費用			1,595,455 千円	資産価額 + 再整備費
	平価期間			46 年	当該事業の工事期間 + 4 0 年
K	総便益額(現在価値化)			4,107,323 千円	
K	総費用総便益比	=	÷	1.52	

効果項目	年効果額	効果の要因
作物生産効果	142,824 千円	用排水施設、区画整理、暗きょ、客土の整備を実施 した場合と実施しなかった場合での農作物生産量が 増減する効果 対象作物:水稲、小麦、大豆、そば、メロン
品質向上効果	31,536 千円	用水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での作物の品質が向上する効果 対象作物:水稲
営農経費節減効果	36,976 千円	用排水施設、区画整理、暗きょ、客土の整備を実施 した場合と実施しなかった場合での営農経費が増減 する効果 対象作物:水稲、小麦、大豆、そば、メロン
維持管理費節減効果	1,052 千円	用排水施設の整備を実施した場合と実施しなかった 場合での維持管理費が増減する効果 対象施設:用水路、排水路
計	212,388 千円	

事業名	経営体育成基盤整備事業	都道府県名	北海道	地区名	新北部
	(農地集積加速化基盤整備事業)				

1.総費用総便益比の算定

	区分	算足	定式	数值	備考
×	総費用(現在価値化)	=	+	3,984,670 千円	
	当該事業による費用			2,449,583 千円	
	その他費用			1,535,087 千円	関連事業費 + 資産価額 + 再整備費
	平価期間			46 年	当該事業の工事期間 + 4 0 年
×	総便益額(現在価値化) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			11,710,605 千円	
×	^総 費用総便益比	=	÷	2.93	

効果項目	年効果額	効果の要因
作物生産効果	343,623 千円	用排水施設、区画整理、暗渠排水の整備を実施した場合と実施しなかった場合での農作物生産量が増減する効果対象作物:水稲、小麦、大豆、小豆、たまねぎ、アスパラガス
品質向上効果	132,924 千円	用水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での作物の品質が向上する効果 対象作物:水稲
営農経費節減効果	127,318 千円	用排水施設、区画整理、暗渠排水の整備を実施した場合と実施しなかった場合での営農経費が増減する効果 対象作物:水稲、小麦、大豆、小豆、たまねぎ、アスパラガス
維持管理費節減効果	5,427 千円	用排水施設及び区画整理の整備を実施した場合と実施しなかった場合での維持管理費が増減する効果 対象施設:用水路、排水路、農道
計	598,438 千円	

事業名 経営体育成基盤整備事業 都道府県名 北海道 地区名 新南部 (農地集積加速化基盤整備事業)	事業名		都道府県名	北海道	地区名	新南部
---	-----	--	-------	-----	-----	-----

1.総費用総便益比の算定

区分		算定式		数值	備考
総費用(現在価値化)		=	+	2,119,128 千円	
	当該事業による費用			1,286,934 千円	
	その他費用			832,194 千円	関連事業費 + 資産価額 + 再整備費
	平価期間			46 年	当該事業の工事期間 + 40年
総便益額(現在価値化)				5,506,144 千円	
総費用総便益比		=	÷	2.59	

効果項目	年効果額	効果の要因
作物生産効果	154,518 千円	用排水施設、区画整理、暗渠排水、客土の整備を実施した場合と実施しなかった場合での農作物生産量が増減する効果 対象作物:水稲、小麦、大豆、小豆、ねぎ、メロン
品質向上効果	48,780 千円	用水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での作物の品質が向上する効果 対象作物:水稲
営農経費節減効果	83,150 千円	用排水施設、区画整理、暗渠排水の整備を実施した場合と実施しなかった場合での営農経費が増減する効果 対象作物:水稲、小麦、大豆、小豆、ねぎ、メロン
維持管理費節減効果	926 千円	用排水施設及び区画整理の整備を実施した場合と実施しなかった場合での維持管理費が増減する効果 対象施設:用水路、排水路、農道
計	285,522 千円	

事業名 経営体育成基盤整備事業 (農地集積加速化基盤整備事業)	都道府県名	北海道	地区名	新西部
---------------------------------	-------	-----	-----	-----

1.総費用総便益比の算定

区分		算定式		数值	備考
総費用(現在価値化)		=	+	4,339,563 千円	
	当該事業による費用			1,100,721 千円	
	その他費用			3,238,842 千円	関連事業費 + 資産価額 + 再整備費
	平価期間			46 年	当該事業の工事期間 + 40年
総便益額(現在価値化)				5,361,622 千円	
総費用総便益比		=	÷	1.23	

効果項目	年効果額	効果の要因
作物生産効果	178,688 千円	用排水施設、区画整理、暗渠排水、客土の整備を実施した場合と実施しなかった場合での農作物生産量が増減する効果 対象作物:水稲、小豆、かぼちゃ、メロン、スイートコーン
品質向上効果	62,736 千円	用水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での作物の品質が向上する効果 対象作物:水稲
営農経費節減効果	28,620 千円	用排水施設、区画整理、暗渠排水の整備を実施した場合と実施しなかった場合での営農経費が増減する効果 対象作物:水稲、小豆、かぼちゃ、メロン、スイートコーン
維持管理費節減効果	2,358 千円	用排水施設及び区画整理の整備を実施した場合と実施しなかった場合での維持管理費が増減する効果 対象施設:用水路、排水路、農道
計	267,686 千円	

事業名 経営体育成基盤整備事業 (農地集積加速化基盤整備事業)	都道府県名	北海道	地区名	杵臼(西部)
---------------------------------	-------	-----	-----	--------

1.総費用総便益比の算定

区分		算定式		数值	備考
総費用 (現在価値化)		=	+	9,888,594 千円	
	当該事業による費用			4,738,686 千円	
	その他費用			5,147,908 千円	関連事業費 + 資産価額 + 再整備費
Ė	平価期間			48 年	当該事業の工事期間 + 4 0 年
総便益額(現在価値化)				14,198,851 千円	
総費用総便益比		=	÷	1.43	

効果項目	年効果額	効果の要因
作物生産効果	389,563 千円	用排水施設、区画整理、暗渠排水、客土の整備を実施した場合と実施しなかった場合での農作物生産量が増減する効果 対象作物:水稲、小麦、大豆、ばれいしょ、かぼちゃ、メロン
品質向上効果	155,825 千円	用水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での作物の品質が向上する効果 対象作物:水稲
営農経費節減効果	145,766 千円	用排水施設、区画整理、暗渠排水、客土の整備を実施した場合と実施しなかった場合での営農経費が増減する効果 対象作物:水稲、小麦、大豆、ばれいしょ、かぼちゃ、メロン
営農に係る走行経費節減 効果	17,446 千円	農道の整備を実施した場合と実施しなかった場合で の営農に係る走行経費が低減する効果 対象作物:水稲、小麦、大豆、ばれいしょ、かぼち ゃ、メロン
維持管理費節減効果	10,306 千円	用排水施設、農道の整備を実施した場合と実施しな かった場合での維持管理費が増減する効果 対象施設:用水路、排水路
一般交通等経費節減効果	3,568 千円	農道の整備を実施した場合と実施しなかった場合で の一般車両の走行経費が低減する効果 対象施設:農道
計	701,862 千円	

事業名	経営体育成基盤整備事業	都道府県名	北海道	地区名	名寄東
	(農地集積加速化基盤整備事業)				

1.総費用総便益比の算定

	区分	算足	定式	数值	備考
×	総費用(現在価値化)	=	+	4,768,882 千円	
	当該事業による費用			3,259,327 千円	
	その他費用			1,509,555 千円	資産価額 + 再整備費
	平価期間			46 年	当該事業の工事期間 + 4 0 年
×	総便益額(現在価値化)			6,473,145 千円	
×	総費用総便益比	=	÷	1.35	

効果項目	年効果額	効果の要因
作物生産効果	151,296 千円	区画整理を実施した場合と実施しなかった場合での 農作物生産量が増減する効果 対象作物:水稲、小麦、小豆、かぼちゃ
品質向上効果	65,198 千円	用水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での作物の品質が向上する効果 対象作物:水稲
営農経費節減効果	124,591 千円	区画整理を実施した場合と実施しなかった場合での 営農経費が増減する効果 対象作物:水稲、小麦、小豆、かぼちゃ
維持管理費節減効果	2,274 千円	区画整理を実施した場合と実施しなかった場合での 維持管理費が増減する効果 対象施設:用水路、排水路、農道
耕作放棄防止効果	174 千円	区画整理を実施した場合と実施しなかった場合での 耕作放棄の発生が防止され、作物生産が維持される 効果 対象作物:水稲、小麦、小豆、かぼちゃ
計	338,985 千円	

	事業名	経営体育成基盤整備事業 (農地集積加速化基盤整備事業)	都道府県名	北海道	地区名	東和
--	-----	--------------------------------	-------	-----	-----	----

1.総費用総便益比の算定

区分	算定式	数值	備考
総費用(現在価値化)	= +	3,711,108 千円	
当該事業による費用		1,868,860 千円	
その他費用		1,842,248 千円	関連事業費 + 資産価額 + 再整備費
評価期間		46 年	当該事業の工事期間 + 40年
総便益額(現在価値化)		4,346,233 千円	
総費用総便益比	= ÷	1.17	

効果項目	年効果額	効果の要因
作物生産効果	83,569 千円	区画整理を実施した場合と実施しなかった場合での 農作物生産量が増減する効果 対象作物:水稲、小麦、大豆、小豆、ほうれんそ う、かぼちゃ
品質向上効果	35,784 千円	区画整理を実施した場合と実施しなかった場合での 作物の品質が向上する効果 対象作物:水稲
営農経費節減効果	107,820 千円	区画整理を実施した場合と実施しなかった場合での 営農経費が増減する効果 対象作物:水稲、小麦、大豆、たまねぎ
営農に係る走行経費節減 効果	1,001 千円	区画整理を実施した場合と実施しなかった場合での 営農に係る走行経費が低減する効果 対象作物:水稲、小麦、大豆、ばれいしょ、かぼち ゃ、メロン
維持管理費節減効果	51 千円	区画整理を実施した場合と実施しなかった場合での 維持管理費が増減する効果 対象施設:用水路、排水路、農道
耕作放棄防止効果	875 千円	区画整理を実施した場合と実施しなかった場合での 耕作放棄の発生が防止され、作物生産が維持される 効果 対象作物:水稲、小麦、大豆、ばれいしょ、かぼち ゃ、メロン
農業労働環境改善効果	39 千円	区画整理を実施した場合と実施しなかった場合での 未整備の田越し水田による隣接耕作者との調整が不 要になり、精神的疲労が解消する効果
一般交通等経費節減効果	154 千円	農道の整備を実施した場合と実施しなかった場合で の一般車両の走行経費が低減する効果 対象施設:農道
計	229,293 千円	

事業名	経営体育成基盤整備事業	都道府県名	岩手	地区名	藤里北部
	(農地集積加速化基盤整事業)				

1.総費用総便益比の算定

	区分	算足	〕式	数值	備考
×	総費用(現在価値化)	=	+	1,440,932 千円	
	当該事業による費用			1,010,086 千円	
	その他費用			430,846 千円	関連事業費 + 資産価額 + 再整備費
i	平価期間			46 年	当該事業の工事期間 + 4 0 年
K	総便益額(現在価値化)			1,550,710 千円	
×	総費用総便益比 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	=	÷	1.07	

効果項目	年効果額	効果の要因
作物生産効果	26,896 千円	区画整理及び用排水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での農作物生産量が増減する効果対象作物:水稲、大豆、レタス、ピーマン、トマト
営農経費節減効果	51,420 千円	区画整理及び用排水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での営農経費が増減する効果 対象作物:水稲、大豆
維持管理費節減効果	2,379 千円	用排水施設の整備を実施した場合と実施しなかった 場合での維持管理費が増減する効果 対象施設:用水路、排水路
耕作放棄地防止効果	27 千円	区画整理及び用排水施設の整備を実施に伴い耕作放 棄地が防止される効果
計	80,722 千円	

事業名	経営体育成基盤整備事業	都道府県名	岩手	地区名	日形
	(農地集積加速化基盤整備事業)				

1.総費用総便益比の算定

区分	算定式	数值	備考
総費用(現在価値化)	= +	2,161,219 千円	
当該事業による費用		1,172,038 千円	
その他費用		989,181 千円	関連事業費 + 資産価額 + 再整備費
評価期間		46 年	当該事業の工事期間 + 4 0 年
総便益額(現在価値化)		2,245,092 千円	
総費用総便益比	= ÷	1.03	

効果項目	年効果額	効果の要因
作物生産効果	38,043 千円	区画整理及び用水施設の整備を実施した場合と実施 しなかった場合での農作物生産量が増減する効果 対象作物:水稲、飼料作物
営農経費節減効果	82,487 千円	区画整理及び用水施設の整備を実施した場合と実施 しなかった場合での営農経費が増減する効果 対象作物:水稲、飼料作物
維持管理費節減効果	444 千円	区画整理及び用水施設の整備を実施した場合と実施 しなかった場合での維持管理費が増減する効果 対象施設:用水路、排水路
計	120,086 千円	

事業名	経営体育成基盤整備事業	都道府県名	宮城県	地区名	大曲
	(農地集積加速化基盤整備事業)				

1.総費用総便益比の算定

	区分 算定式		数值	備考	
4	総費用(現在価値化)	=	+	1,712,056 千円	
	当該事業による費用			933,033 千円	当該事業費956,000千円
	その他費用			779,023 千円	関連事業費 + 資産価額 + 再整備費
Ė	平価期間			46 年	当該事業の工事期間 + 4 0 年
4	総便益額(現在価値化)			1,973,525 千円	
総費用総便益比		=	÷	1.15	

効果項目	年効果額	効果の要因
作物生産効果	50,363 千円	当該事業の実施により、農地や水利条件の 改良等がなされることに伴い、その受益地 域において発生する作物生産量により算定 する効果
営農経費節減効果	55,639 千円	ほ場の大区画化による労働時間の短縮や機 械経費の節減により算定する効果
維持管理費節減効果	261 千円	用排水施設等の改修に伴う施設の維持管理 費の節減により算定する効果
耕作放棄防止効果	27 千円	当該事業の実施により、耕作放棄地の発生 が防止されることにより算定される効果
計	106,290 千円	

事業名	経営体育成基盤整備事業	都道府県名	秋田	地区名	宮田
	(農地集積加速化基盤整備事業)				

1.総費用総便益比の算定

	区分	算足	定式	数值	備考
4	総費用(現在価値化)	=	+	1,515,479 千円	
	当該事業による費用			963,997 千円	
	その他費用			551,482 千円	関連事業費 + 資産価額 + 再整備費
Ė	平価期間			46 年	当該事業の工事期間 + 4 0 年
4	総便益額(現在価値化)			2,651,902 千円	
総費用総便益比		=	÷	1.74	

効果項目	年効果額	効果の要因
作物生産効果	52,137 千円	用水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での農作物生産量が増減する効果 対象作物:水稲、大豆、えだまめ、アスパラガス他
営農経費節減効果	70,926 千円	用水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での営農経費が増減する効果 対象作物:水稲、大豆
維持管理費節減効果	11,126 千円	用水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での維持管理費が増減する効果 対象施設:用水路、排水路、道路
耕作放棄防止効果	140 千円	事業を実施しなかった場合に耕作放棄の発生が想定 される農地の作物生産と多面的機能の効果
農業労働環境改善効果	3,119 千円	事業の実施により農作業環境が変化し営農に係る労働が質的に改善される効果 対象:防除作業、水管理
景観・環境保全効果	225 千円	事業の実施により地域住民の生活環境や利便性の向 上等について寄与される効果
計	137,673 千円	

事業名	経営体育成基盤整備事業	都道府県名	秋田	地区名	天塩
	(農地集積加速化基盤整備事業)				

1.総費用総便益比の算定

	区分	算足	定式	数值	備考
×	総費用(現在価値化) -	=	+	1,908,009 千円	
	当該事業による費用			1,390,421 千円	
	その他費用			517,588 千円	関連事業費 + 資産価額 + 再整備費
110	平価期間			46 年	当該事業の工事期間 + 4 0 年
×	総便益額(現在価値化) ※ではできる。			4,161,201 千円	
総費用総便益比		=	÷	2.18	

効果項目	年効果額	効果の要因
作物生産効果	111,911 千円	用水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での農作物生産量が増減する効果 対象作物:水稲、大豆、えだまめ、たまねぎ他
営農経費節減効果	99,695 千円	用水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での営農経費が増減する効果 対象作物:水稲、大豆
維持管理費節減効果	2,270 千円	用水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での維持管理費が増減する効果 対象施設:用水路、排水路、道路
耕作放棄防止効果	124 千円	事業を実施しなかった場合に耕作放棄の発生が想定 される農地の作物生産と多面的機能の効果
農業労働環境改善効果	2,099 千円	事業の実施により農作業環境が変化し営農に係る労働が質的に改善される効果 対象:防除作業
地籍確定効果	566 千円	事業の実施により区画の整形や確定測量が行われる ことで、地籍が明確になる効果
計	216,665 千円	

事業名	経営体育成基盤整備事業	都道府県名	山形県	地区名	西郷北部
	(農地集積加速化基盤整備事業)				

1.総費用総便益比の算定

区分		算词	〕式	数值		備考
総費用(現在価格	直化)	=	+	5,641,513	千円	
当該事業によ	る費用			4,498,852	千円	当該事業費 5,150,000 千円
その他費用				1,142,661	千円	関連事業費 + 資産価額 + 再整備費
評価期間				46	年	当該事業の工事期間 + 40年
総便益額(現在	価値化)			8,876,850	千円	
総費用総便益比		=	÷	1.57		

効果項目	年効果額	効果の要因
作物生産効果	160,517 千円	区画整理を実施した場合と実施しなかった場合での 農作物生産量が増減する効果 対象作物:水稲、大豆、枝豆、アスパラガス、 ねぎ、トルコギキョウ、ユリ、ストック
営農経費節減効果	323,800 千円	区画整理を実施した場合と実施しなかった場合での 営農経費が増減する効果 対象作物:水稲、大豆、枝豆、ねぎ、トルコギキョ ウ、ユリ、ストック
維持管理費節減効果	14,998 千円	区画整理を実施した場合と実施しなかった場合での 維持管理費が増減する効果 対象施設:揚水機場、用排水路、農道
耕作放棄地防止効果	4,955 千円	区画整理を実施した場合と実施しなかった場合での 耕作放棄地による農作物生産量が増加する効果 対象作物:水稲、大豆、枝豆、ねぎ、トルコギキョ ウ、ユリ、ストック
計	474,274 千円	

事業名	経営体育成基盤整備事業	都道府県名	長野県	地区名	烏川
	(農地集積加速化基盤整備事業)				

1.総費用総便益比の算定

	区分		定式	数值	備考
総費用(現在価値化)		=	+	3,638,279 千円	
	当該事業による費用			2,282,664 千円	
	その他費用			1,355,615 千円	関連事業費 + 資産価額 + 再整備費
評価期間				46 年	当該事業の工事期間 + 40年
総便益額(現在価値化)				3,976,800 千円	
総費用総便益比		=	÷	1.09	

効果項目	年効果額	効果の要因
作物生産効果	122,616 千円	用水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での農作物生産量が増減する効果 対象作物:水稲、大豆、加エトマト、小麦
品質向上効果	305 千円	農道舗装の整備を実施した場合と実施しなかった場合での荷傷みが防止され、農産物販売額が増減する効果 対象作物:加工とまと、きゅうり
営農経費節減効果	64,561 千円	区画整理を実施した場合と実施しなかった場合での 営農経費が増減する効果 対象作物:大豆、大豆、加工とまと、小麦、きゅう り、ぶどう
営農に係る走行経費節減 効果	11,152 千円	農道の整備を実施した場合と実施しなかった場合での営農に係る走行経費が増減する効果 対象作物:水稲、大豆、加工とまと、小麦、きゅう り
維持管理費節減効果	-846 千円	用排水路及び農道の整備を実施した場合と実施しな かった場合での維持管理経費が増減する効果 対象施設:用排水路、農道
計	197,788 千円	

1.総費用総便益比の算定

	区分		定式	数值	備考
*	総費用(現在価値化)		+	3,748,424 千円	
	当該事業による費用			3,321,646 千円	
	その他費用			426,778 千円	関連事業費 + 資産価額 + 再整備費
評価期間				46 年	当該事業の工事期間 + 40年
総便益額(現在価値化)				4,204,576 千円	
総費用総便益比		=	÷	1.12	

効果項目	年効果額	効果の要因
作物生産効果	12,320 千円	区画整理事業実施により、作物生産の量的増減が発生する 対象作物:水稲、小麦、大豆等
品質向上効果	1,687 千円	支線道路Aの農道効果として、農作物の品質的変化 が発生する。 対象作物:きゅうり、はくさい、いちご等
営農経費節減効果	191,238 千円	区画整理事業の実施により、作物生産に要する費用 の増減発生する。 対象作物:水稲、小麦、大豆等
維持管理費節減効果	8,147 千円	区画整理事業実施により、これまでに要した維持管 理費に増減が発生する。 対象施設:揚水機、道路等
営農に係る走行経費節減 効果	29,957 千円	支線道路Aの農道効果として、農業交通に係る走行 経費の節減が発生する。 対象施設:農道
地籍確定効果	1,250 千円	区画整理の実施により、区画の整形や確定測量が行われることで、地籍が明確になる効果。
安全性向上効果	731 千円	安全施設を設置することで、被害の深刻さ、重大さ を緩和させる効果。 対象施設:転落防止柵等
文化財の調査に関する効果	35 千円	土地改良事業により文化財措置費用を負担すること により、既存のほ場での作物生産の逸失を回避する 効果。 対象作物:水稲
計	245,365 千円	

事業名	経営体育成基盤整備事業	都道府県名	長崎	地区名	牟田
	(農地集積加速化基盤整備事業)				

1.総費用総便益比の算定

	区分		定式	数值	備考
総費用(現在価値化)		=	+	1,793,175 千円	
	当該事業による費用			1,464,414 千円	
	その他費用			328,761 千円	関連事業費 + 資産価額 + 再整備費
評価期間				46 年	当該事業の工事期間 + 4 0 年
総便益額(現在価値化)				2,043,429 千円	
総費用総便益比		II	÷	1.13	

効果項目	年効果額	効果の要因
作物生産効果	45,142 千円	区画整理を実施した場合と実施しなかった場合での 農作物生産量が増減する効果 対象作物:水稲、葉たばこ、たかな等
営農経費節減効果	67,232 千円	区画整理を実施した場合と実施しなかった場合での 営農経費が増減する効果 対象作物:水稲、ソルゴー、プロッコリー等
維持管理費節減効果	4,561 千円	区画整理を実施した場合と実施しなかった場合での 維持管理費が増減する効果 対象施設:用排水施設、農道
耕作放棄防止効果	10 千円	区画整理の実施により、耕作放棄が防止され、作物 生産等が維持される効果
地籍確定効果	390 千円	区画整理の実施により、地積が明確になる効果
計	117,335 千円	

事業名 経営体育成基盤整備事業 都道府県名 熊本 地区 (農地集積加速化基盤整備事業)	八島
---	----

1.総費用総便益比の算定

	区分		三式	数值	備考
総費用(現在価値化)		=	+	4,085,259 千円	
	当該事業による費用			2,122,553 千円	
	その他費用			1,962,706 千円	関連事業費 + 資産価額 + 再整備費
Ė	評価期間			46 年	当該事業の工事期間 + 4 0 年
総便益額 (現在価値化)				5,610,752 千円	
総費用総便益比		=	÷	1.37	

効果項目	年効果額	効果の要因
作物生産効果	91,919 千円	区画整理を実施した場合と実施しなかった場合での 農作物生産量が増減する効果 対象作物:水稲、小麦、なす、トマト、メロン、だいこ ん、レタス、たまねぎ等
営農経費節減効果	83,134 千円	区画整理を実施した場合と実施しなかった場合での 営農経費が増減する効果 対象作物:水稲、小麦、なす、トマト、メロン、だいこ ん、レタス、たまねぎ等
維持管理費節減効果	24,713 千円	農道・用排水施設の整備を実施した場合と実施しな かった場合での維持管理費が増減する効果 対象施設:用排水路、揚水機、農道
耕作放棄防止効果	3,184 千円	区画整理の実施により、耕作放棄が防止され、作物 生産等が維持される効果
災害防止効果	134,254 千円	排水施設の整備を実施した場合と実施しなかった場合での災害による被害額が増減する効果 対象:農作物、農業関連資産、公共・一般資産
地籍確定効果	948 千円	区画整理の実施により、地積が明確になる効果
計	288,726 千円	